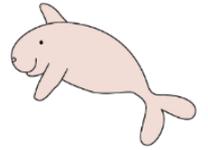


辺野古大浦湾を保護海域に ～ 沖縄県への提言 ～



沖縄県に提言

2月20日沖縄県に「生物多様性おきなわ戦略」（以下、「おきなわ戦略」）の改定について提言しました。昨年3月「生物多様性国家戦略」が策定され、2030年にむけて「陸海などの各30%を保護区域にする（30by30）」取り組みが始まっているからです。「提言書」では、「おきなわ戦略」改定の議論に前回と同じく「市民団体の参加」と、「海洋保護区域の拡充の具体化」を求めました。2月22日、山内末子沖縄県議（ていーだ平和ネット）が代表質問で「おきなわ戦略改定の取り組み」と「辺野古大浦湾一帯を30by30の海域に組み込む」ことを求めました。県環境部長は「有識者会議で議論をしているが、令和6年度中に結論を出す」「辺野古大浦湾は重要な海域なので、ジュゴンの食み跡などの調査を継続する」と保護区域拡充の具体的な行動計画がない答弁に終始しました。私たちは生物多様性条約第14回締約国会議（CBD・COP14）で決定され、環境省が呼びかけている「自然共生サイトのOECM（注）」に参加することを県に提言しています。一方、環境省には大浦湾を海洋保護区域（30by30）に認定することを要求しています。

「台湾有事」に怒り高まる

「宮古と八重山全島12万人を九州と山口県に避難させる」「24年度内に南西諸島の避難計画を策定する」との政府

原案が明らかになりました（沖縄タイムス2月27日）。しかし、「平和外交の努力こそ国益だ」（琉球新報社説1月30日）が県民世論になっています。防衛省は陸上自衛隊うるま勝連分屯地に配備されるミサイル部隊の訓練場を沖縄県や住民の了解なしで建設しようとしています。保革をこえた全自治会の反対運動で、デニー知事が防衛相に白紙撤回を要求、県議会全会派一致の反対決議、地元うるま市長の反対声明などで岸田内閣を追い込んでいます。建設予定地のうるま市石川住民には1959年6月米軍ジェット機の宮森小学校墜落事件、多数の犠牲者を出した怒りがあるからです。また、世界一危険な普天間基地を抱えた宜野湾市長も防衛省に「辺野古基地建設の工期短縮、普天間基地返還期日の確定」を求めています。辺野古新基地建設が代執行で着工したものの、在日米軍幹部が「（基地建設の）軟弱地盤への懸念」「普天間基地の維持」（昨年11月7日）の発言をしているからです。「台湾有事」への不安と怒りが高まっています。「二つの戦争ノー」「地球環境守れ」が国際世論です。HOPE SPOT 辺野古大浦湾を守るチャンスです。

（注）「自然共生サイトのOECM」には、「民間の取り組みなど（自治体含む：筆者補足）によって生物多様性保全が図られている区域を国が認定する区域」と規定しています。令和5年度で184区域が認定。



殺傷兵器の輸出進める岸田内閣～国会で議論を



2月19日「防衛力の抜本的強化に関する有識者会議」で、座長の榊原経団連名誉会長が「防衛費43兆円の見直しをタブーとせず本音ベースで議論を」とさらなる軍事費拡大を要求しました。参加者は三菱重工業会長、元防衛事務次官、元防衛大臣、マスコミ関係者など、議論は非公開です。経団連は2015年9月に「武器輸出を国家戦略に」との提言をすでに出しています。安倍内閣が武器輸出を基本的に認める閣議決定した翌年です。国会で議論しなかったこの閣議決定は、殺傷兵器は輸出禁止、救難・輸送・警戒など5分野の兵器に限っていました（注1）。

だから、岸田内閣は武器輸出ルールの緩和を自らの役割にしているのです。ライセンス生産のパトリオットミサイルを自衛隊が必要とする量に4割不足しているにもかかわらず、昨年12月「米国の在庫を補完するため」と米国に輸出を決定。これで米国はウクライナにミサイルを供与するのです。日本はウクライナ戦争に間接的に参戦

したのです。また、日・英・伊3国で共同開発している次期戦闘機を第3国に輸出しようとしています。殺傷兵器の輸出です。国政選挙で得票数を落としている公明党は、「平和の党」（党是）と「政権与党残留」（党益）の間で揺れ動いています。解散総選挙が予想されている中で自民党と矛盾を深めています。殺傷能力ある兵器輸出に反対する世論が多数で、時事通信では6割に達しています（昨年8月世論調査）。国会で議論すべきです。武器輸出を国家戦略にさせてはなりません。戦争国家づくりに反対しましょう。（事務局 蛭川義章）

（注1）安倍内閣が否定した「武器輸出3原則」とは「①共産圏、国連決議禁止国、紛争当事国に輸出しない。②それ以外の地域にも、武器輸出を慎むものとする」（1976年2月三木内閣）でした。

ホープ・スポット辺野古・大浦湾を守れ！

世界自然遺産やんばるの森を守れ！

ホープ・スポット辺野古・大浦湾を守れ

辺野古新基地建設を止めよう

昨年の後半、辺野古新基地建設について、米政府や米国シンクタンクが懸念を示していることを、報告書や国防権限法等の分析を通して明らかにした。また米国情報公開法を使って国防総省に対して、軟弱地盤に対する同省の分析評価の公開請求を行なった。同省からの分析評価の公開はまだだが、情報公開請求と連動する形で、沖縄のメディアが中心となって在沖米軍幹部が軟弱地盤に懸念を示していることを公にさせている。

年明けてのこの数ヶ月間、米国側の見解や情報を国内で広げていく取り組みを行ってきた。特に2月は「沖縄・琉球瓜の声を届ける会」が主催した沖縄でのシンポジウムと「沖縄戦首都圏の会」が主催した東京での講演会で『『ポスト代執行』辺野古の闘いのために』というタイトルでこれらの情報を報告することができた。

講演の参加者からは、代執行により基地建設が強行され、反対運動の閉塞感を感じてきたが、米側が懸念を示していることを知ることで、今後の方向性を見出せたという感想が多かった。また、基地を建設しても軟弱地盤改良工事をして「環境に影響がない」とする防衛局の「ありえない結論」のもと「代執行」が行われたことを知り、改めて環境問題を訴えていくことの重要性を確認したという感想も多かった。今後も米側が懸念を示していることを国内世論に広めていくことが必要である。

それから国内での動きと並行する形で、沖縄県のワシントン事務所と意見交換をする機会があった。同事務所が接触している国防総省や連邦議会関係者からも、軟弱地盤についての懸念は示されているとのことだった。一方、その懸念を基地建設計画の見直しにどのように繋げていくかを模索しているとのことだった。同事務所からは、米国市民とのネットワークのあるSDCCやOEJPに対して、米国政府への働きかけの協力をお願いされている。

現在、同事務所と意見交換を踏まえて、米国の市民社会とのネットワークを通して、米国連邦議会有力議員へのコンタクトの確立に動いている。できるだけ早い時期に、基地建設の進捗状況と在沖米軍が軟弱地盤について懸念を表明したことを、連邦議会議員と米国の市民社会のメンバーに報告していきたい。

やんばるの森を守れ

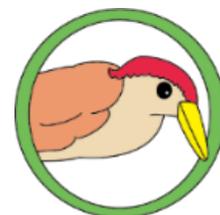
北部訓練場の問題を解決しよう

この2月にドイツ・ベルリンに拠点を置くWorld Heritage Watchが主催した第13回NGO-UNESCOフォーラムに私も（ここでは）OEJPの代表として参加した。フォーラムには39のNGO、ユネスコ世界遺産センター、世界自然保護連合（IUCN）などユネスコ諮問機関が参加し、問題を抱える世界遺産についての情報提供、意見交換、要請が行われた。このNGO-UNESCOフォーラムは、NGOがユネスコやIUCNと直接意見が交換できるという意味で非常に重要である。

私は“Hesitant Heritage: Yambaru Forest and the U.S. Military's Northern Training Area”というタイトルで、環境省が軍事訓練や米軍廃棄物に関する問題に十分に対応していない状況を報告し、ユネスコとIUCNから環境省と米軍に働きかけるように要請を行なった。遺産地内の米軍廃棄物について環境省がユネスコに報告することを躊躇していること、米軍廃棄物についての適切な看板が設置されていないこと、軍事訓練の環境への影響について十分な調査が行われていないこと、世界遺産と北部訓練場と境界線の問題、そして日米協力に関する二国間文書の有効性への疑念について報告、要請した。この報告と要請は、SDCCが省庁交渉で収集してきた情報を基にしたものであり、改めてSDCCの定期的省庁交渉の重要性を確認している。

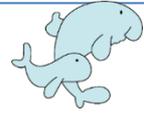
NGO-UNESCOフォーラムへは今回で3回目の参加になるが、このフォーラムの役割や有効性、そして関わり方がより明確に分かってきた。この7月にはインド・ニューデリーで世界遺産委員会が開催されるが、その前にユネスコ世界遺産センターやIUCNへの報告書の提出を予定している。

(国際担当 吉川秀樹)



報告

2/18 第1回オンラインセミナー



「佐喜真美術館より～沖縄戦の図と普天間基地～」

今回は、佐喜真美術館館長の佐喜真道夫さんにお話を伺いました。

佐喜真美術館は佐喜真さんが、丸木位里、丸木俊夫妻の「沖縄戦の図」を展示するためにつくった美術館です。吸収されていた先祖代々の土地を取り戻すため、那覇防衛施設局に3年通い詰めたが、なしのついで。そこで、地元宜野湾市の桃原正賢市長や比嘉盛光企画部長に協力を求めると在沖米海兵隊の不動産管理事務所長ポール・ギノザさんを紹介してくれました。沖縄系移民3世のポール・ギノザさんは、「美術館が出来たら宜野湾はよくなる」と1回の会談で土地の返還をOKしてくれたのです。佐喜真さんと、宜野湾市の市長さんたち、ポール・ギノザさん。佐喜真美術館は、沖縄を思う3つの心が奇跡の化学変化を起こして出来たのです。

沖縄にやってきた丸木夫妻のもとには、多くの人が沖縄戦の体験証言をしに集まってきて、その方たちがモデルになって、沖縄戦の図が描き上げられました。

“戦争をみんなで記憶し、描いた「沖縄戦の図」は、「命どろ宝」の思いを可視化したもの。沖縄の思いが世界に通ずる言葉になった”と佐喜真さん。

辺野古基地建設強行、ミサイル基地配備と厳しい状況が続きますが、沖縄を思う心は、きっとまた化学変化を起こし、奇跡をもたらすことと思います。ぜひ、「沖縄戦の図」を觀に佐喜真美術館を訪れてください。

(関西 山根富貴子)



全国の人に知ってもらいたいと作られた映画「沖縄戦の図」。詳しくは佐喜真美術館HPをご覧ください。

首都圏

不当な「代執行」による大浦湾の埋め立てを許さない



3. 7学習集会報告



東京・文京区民センターで国会包囲実主催、総がかり実共催の学習集会が開かれました。代執行の強行と3・1最高裁の“不受理”決定と言う緊迫した状況の下で150人が参加し講演に聞き入りました。

{環境} {行政法} {遺骨南部土砂} {自治体議員} の3講演、1報告でした。

花輪伸一さん～スライドを駆使し、世界でもまれな生物多様性の宝を殺してはならないと静かに提起しました。

武田真一郎さん～裁判所は全く審理をしなかった。“国に従え”と言っただけだ。司法は地方と国は対等という地方自治法の基本を骨抜きにした。辺野古訴訟で日本を民主・分権的な国家でなく集権的、権威主義的国家に変えようとしている～これこそ政府の目標ではないだろうか～と発言された。

ガマフヤーの具志堅隆松さんはリモート参加～遺骨はどこの人でも家族の元へ帰る権利がある。政府は返す義務があるのだ。戦争犠牲者の骨が入った土砂を埋め立てに使うのは、戦没者への冒瀆である。今沖縄は「台湾有事」を煽り立て全島要塞化している。自衛隊は長距離ミサイルを持って帰ってくれ！それが戦争回避策だ。「本土の沖縄化」が全国で今進んでいることに国民は気付くべきだ。

130カ所の弾薬庫設置に全国で反対して欲しい。具志堅さんの言葉一つ一つが胸に刺さります。

長南博邦さん～地方自治体での決議・意見書提出などの活動報告をされ、最後に主催者からの行動提起がありました。最高裁第一小法廷へのハガキ行動です。

「不受理」を撤回し実質審理を要求するものです。審理もせず代執行などトンでもない事です。“大浦湾を殺すな！”みんなの声を最高裁第一小法廷に届けましょう。

(兼杉 美枝子)

【抗議はがきの宛先】

〒102-8651

千代田区単町4-2 最高裁判所 第一小法廷御中



首都圏

ポスト「代執行」辺野古の闘いー取り組みのために SDCC国際担当 吉川さんの東京での講演

2月25日、東京の文京シビックセンターで、SDCC国際担当の吉川秀樹さんの講演が行われました。主催は沖縄戦首都圏の会、共催が沖縄平和ネットワーク首都圏の会でした。

会場に集まった人達は、一言も聞き漏らすまいと、食い入るように聴いていました。吉川さんは、名護・山原で育ち、今も生活しているということで、辺野古の問題はまさに当事者としての強い決意、矜持が伝わりました。吉川さんが「UCNやユネスコ、世界の環境NGOとの繋がり、米国議会とのつながりなどを具体的に報告すると、「目からうろこ！こんな闘い方、運動の仕方があったのか！その上に自分たちの運動があったのか！誰でもできる活動では無いので、凄い！」と皆さんとても感動していました。聴衆に希望を与える講演でした。

SDCCの防衛省や環境省、外務省等との政府交渉が、いかに重要かという事を再認識しました。これからも、沖縄選出の国会議員と力を合わせて、政府交渉を続けていく必要性を感じました。（首都圏 宮城韶子）



講演する吉川秀樹さん

辺野古

兵庫の仲間と海上行動に参加しました



3月10日～13日、辺野古ぶるーHYOGOの仲間と2名で辺野古に行きました。11日、12日は海況が悪く、カヌーの海上行動に参加したのは13日の午前中でした。

11日、12日は安和、塩川でのトラック搬入に対する牛歩行動。多くて数名の方で頑張っています。12日安和では80歳を越える高齢の方が、杖を突きながら頑張っています。椅子を持ってきて「少しお休みになられては」と促しても、「もう少しで帰るから大丈夫」とのこと。小休止を挟んで10:00～16:00まで行動されました。孫のような機動隊を相手に、説教一つ語るわけでもなく、黙々と行動されます。

13日は辺野古崎から長島方向に伸びるK6護岸に対するカヌー行動に参加しました。私よりずっと小柄な女性が、勇敢にフロートにとりつき、30kgもあるカヌーを引きずり

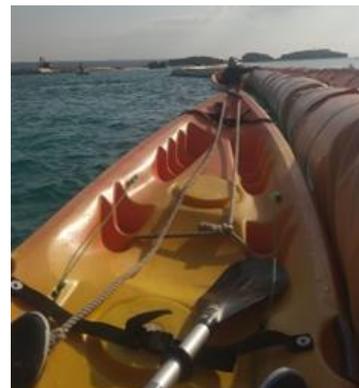
あげてフロート内に俊敏に入っていく姿に圧倒されました。

私は、フロート越えは自信がないので、切れ目から入って、海保のゴムボートを引き寄せせる担当です。フロート内に入るとすぐ海保のゴムボートがやってきます。思い切って工事現場に向けて漕ぎ出すと、あっという間に飛び込んできた海保に拘束されました。

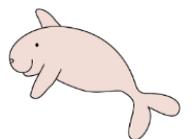
この日は、土砂搬入のガット船を遅らせることはできませんでしたが、船を実際に遅らせる日もあります。一日、一日、工事を10分でも20分でも遅らせようと、牛歩の仲間も海上行動の仲間も頑張っています。これに応える行動を本土で強めたい。また辺野古に行きたいと思いました。（関西 松島洋介）



安和での牛歩行動



カヌーとフロート。長島、平島が見えます



交流広場



小野寺さんと沖縄とのつながりは、沖縄出身の友人との出会いからです。退職してから、うたごえの合唱団に入団し、毎年沖縄連帯支援で沖縄に行き、現地で感じたことを詩に書き、創作曲として沖縄を伝える手段としています。本土と沖縄での報道のギャップに、うたを通じて伝えたいと集会ははじめ要請があればどこにでも出かけうたごえを届けています。

美ら海よ 永遠に！～沖縄のたたかいに心をよせて～

辺野古や高江に初めて行ったのは2016年。やんばるの自然歩道を散策し、鳥の鳴き声や自然の雄大さに感動し、ヘリ基地建設のために森が壊されていく現状を目の当たりにして、できたのが『やんばるの森の小さな命』。森に生息する希少種たちを登場させ、命の尊さや騒音で生活が乱れる子どもたちの叫びをあえて歌詞にしました。また、今帰仁村沖合にジュゴンの死骸が漂流した時には『ジュゴンのふるさと 辺野古の海』を創作。ジュゴンが海草を食べていた姿が土砂投入で消えていく様を伝えます。



創作曲『やんばるの森の小さな命』を、希少種を写真で伝えながらうたっています。

毎年行く沖縄では、学習会や戦跡巡りなどを企画。創作曲を現地の人に届けた「辺野古テント前コンサート」。2017年米軍のヘリから部品が緑ヶ丘保育園に落下し、お母さん達が保育園の上空での米軍機の飛行停止を求める政府交渉や運動に、寄り添いたい思いを込め『空を飛ぶのは小鳥だけがいい』をうたっています。沖縄戦で命を奪われた人たちの『花のすがたに』、遺骨が眠る南部地域や土砂搬入を許さない『ちむぐりさ～遺骨が眠る土を海に沈めないで～』、ガマでの集団死の出来事『轟壕（ガマ）の子守歌』等含めて団として20曲ができました。うたごえを通じて沖縄を知って欲しいと練習を重ねています。

また、昨年は、三上智恵監督の新作「戦雲（いくさらむ）」スピンオフ上映会を企画し、映像から現在の沖縄を多くの人に知ってもらうことに奮闘しました。ホープスポットと世界が認める大浦湾一帯を一日も早く自然豊かな元の姿に返し平和の沖縄、輝ける沖縄になるよう、私にできることを仲間たちと続けていきたいと思っています。

（大阪在住 ちばりよ～沖縄合唱団 小野寺芳子）



「新沖縄フォーラム 『けーし風』 <季刊>」 （発行：新沖縄フォーラム刊行会議）



「けーし風」は季刊発行です。沖縄で強行されている軍事化、米軍基地問題などその時々状況を変えて特集が組まれ、沖縄の視座から語られる内容は読み応えがあり、理解を深め思いを強くしてくれます。沖縄の島々への自衛隊配備・ミサイル基地建設の強行、武器輸出や防衛費増など容認した覚えはないのにこれでもかと押し進められていく。一つ一つ深く考える間もなく押し流されていくような日々が焦燥感に苛まれます。しかし、あきらめてはいません。「けーし風」を読むと、どんな思いを込めて、そこにどのような意義を見出し、座り込み、阻止行動をし、裁判闘争など様々な取り組みが続けられているのかがわかります。連載やコラムも楽しみです。

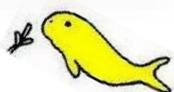
毎月1回開いているじゅごん茶話会ではこれぞという論考を読み合せて学んでいます。119

号の特集：次の一歩を踏み出すために「アキノ隊員訴訟が切開するグローバルな共闘と連帯」（阿部小涼）では、アキノ隊員が訴えている米軍廃棄物問題とその裁判の傍聴から展望が論じられています。「環境主義から米軍基地に鋭く抗議する市民の存在は、ますます重要性を帯びている」はとても重要で、SDCCの「やんばるの森を真の自然遺産に」の取り組みにも力が入ります。毎号読むたびにまだまだがんばれる、がんばろうと励まされています。年4回の定期購読がおすすめです

（関西 池側恵美子）

※定期購読のお申し込みは下記まで。

<https://keshikaji.wordpress.com/>



龍宮神の絶対平和思想 ~こらむ・コラム~

平安座島では、陰暦3月3日の龍宮祭を「ドゥグマチー」と言う。子どもの頃「道具の祭り」と思っていたが、違った。平安座島ではジュゴンをドゥグンと言うので、ドゥグンの漢字の当字が「龍宮」であることが分かった。つまり龍宮神とはジュゴン神のことであった。が、驚いたことに、遙か古代シュメール文明の頃の地中海の海洋民族パレスチナ人たちが、上半身が女神で下半身が魚の「ダゴン神」を崇拝していたという。

このダゴン神信仰が何処から来たかと言えば、南西諸島という他はない。どうやら中国大陸で黄河文明を築き、平和な理想郷を目指し農耕集落「邑」を形成し、サンやザンを信仰して、亀の甲羅に甲骨文字を印した奴人たちがいたのであるが、さらに遠いシュメール文明の頃、ジュゴンをドゥグンやダゴンと呼んで龍宮神信仰を伝えた奴人たちがいたことが、考えられる。その痕跡が、今、戦いが止まぬパレスチナやウクライナの「ナ」「ニア」「ミヤ」の付く地名であるが、悲しくなるばかりだ。南西諸島こそは奴人たちの原郷であり、「ナ」や「ニア」「ミヤ」の付く地名が多いし、龍宮神信仰の絶対平和思想が生まれた地でもあるからだ。しかし絶対平和思想こ

そは軍事国家に邪魔な思想である。それ故、敵を作り戦争を正当化し、金儲けする相対的平和主義国家の日米の軍事支配下に置かれているのであった。

だからと言って、パレスチナのハマスやウクライナのように軍力で抵抗すれば、良いというものではない。逆に弾圧の口実を与えてしまう。ここは辺野古闘争のように非暴力運動に徹し、絶対平和思想で闘い続けることだ。この闘いの強さは「勝つまで諦めない」ところにある。それに解決する方法として、日本全国の神社中心の祭りが、龍宮神信仰の絶対平和思想によるものであることを宣言すること。さらに憲法9条との整合性を図ることである。また、米国の過ちを正して教育することである。今や人類は、軍事力では平和は作れないことを知った。そして、軍事力で地球環境が破壊され、汚染されてきたことを知るようになった。このチャンスに、ジュゴンが絶対平和の神獣であることを周知させることである。

海勢頭豊（うみせど ゆたか：SDCC 共同代表）



① わんさか通信 ★ ジュゴンの①

わびあい・やすらぎ・命どう宝

先日のオンラインセミナーでは接続の不具合などでお聞き苦しい点が多々あり視聴のみなさんの感想が不安でしたが、満足とのお声を頂き安心したところです。

セミナーでも多くの質問があがった丸木夫妻の記事を新聞で発見！埼玉の丸木美術館で「阿波根昌鴻（あはごんしょうこう）写真と抵抗、そして島の人々」という写真展が5月6日まで開催されているそうです。沖縄との縁はずっと繋がっているんですね。

米軍に占領された伊江島で農民たちと共に非暴力の土地闘争を行いカメラで記録されていた「沖縄のガンジー」とも呼ばれた人物。SDCCのスタッフがよく伊江島の「わびあいの里」に行って勉強してきた話を報告してくれました。

今回は3千枚超の記録写真の中から約400点が展示されているそうです。残念ながら埼玉に見に行くことは出来ませんが伊江島を必ず訪れようと思います。

(沖縄 小平裕美)



沖縄タイムス (3/14) より



INFORMATION



<全国・首都圏>

《 今後のスケジュール 》

<関西>

- ・4/1 (月) 防衛省前行動 辺野古実行委員会
- ・4/6 (土) 辺野古の海を埋め立てるな！沖縄に基地はいらない
4.6 新宿大行動 【主催】 関東一坪、辺野古実
11:00～ @新宿駅南口
沖縄 瀬嵩の浜での県民大行動に連帯した行動です。
- ・4/12(金) 政府交渉(防衛省、環境省)
12::15 参議院議員会館ロビー集合
- ・4/13(土) 4/14(日) アースデイ TOKYO 代々木公園
- ・5/4(土)新宿南口スタンディング 11:00～ 関東一坪

- ・4/4 (木) 沖縄を戦場にしない実行委員会
18:30 国労会館 6/23 にむけた関西の取り組み論議
- ・4/25 (木) じゅごん茶話会 14:00～ SDCC 関西事務所
- ・4/28 (日) 「屈辱の日」大阪各駅でのスタンディングなど
よびかけ：沖縄を戦場にしない実行委員会 詳細未定
- ・5/12 (日) ピースフェスタ IN おおさか 2024
11:00～16:00 いくのパーク 主催：同実行員会
- ・5/23 (木) じゅごん茶話会 14:00～

政府交渉・アースデイ TOKYO 2024 に参加します

・政府交渉 (防衛省、環境省)

日時：4月12日 (金) 12:15 参議院議員会館ロビー集合
12月の交渉をふまえ、防衛省には軟弱地盤改良の実現性、
環境省には、大浦湾を海洋保護にするよう交渉します。



昨年12月の政府交渉

・アースデイ TOKYO 2024

日時：4月13日 (土) 14日 (日)
場所：代々木公園
ブースで広くアピールします。



昨年のアースデイ TOKYO



お詫びとアーカイブ視聴のご案内



第7回オンラインセミナーは、配信がうまくいかず、お聴きづらい部分あり、申し訳ありませんでした。内容がとても良かったと感想をいただきほっとしています。次回からも良いセミナーになるよう努力いたします。今までのセミナーアーカイブ (保存記録) を無料公開していますので、どうぞご覧ください。アーカイブ視聴のご案内はこちらです。



<https://blog.goo.ne.jp/sdcc/e/89324579b15d7123cb7cce3222457791>

ジュゴンちゃんぷるニュース VOL.133 2024年4月2日発行
ジュゴン保護キャンペーンセンター Save the D5ugong Campaign Center (SDCC)
(首都圏事務所) 〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-38
大曲マンション201号 なかま共同事務所内
(関西事務所) 〒534-0025 大阪市都島区片町 2-9-21 京橋ベース 302号
連絡は以下のメールにて受け付けております。
○ URL <http://www.sdcc.jp/> ○ E-MAIL info@sdcc.jp

会費(2000円)&カンパ振り込み先

郵便振替:
加入者名 ジュゴン保護キャンペーンセンター
口座番号 00140-9-660199
他行、コンビニからは：ゆうちょ銀行 ○一九支店
口座番号 普通 0660199

ちゃんぷるニュース購読会員募集中です。年会費2000円で年6回ニュースをお届けします
お問い合わせは、上記事務所まで。ニュース購読で、あなたもジュゴンサポーターに！



SDCCのwebsite
<http://www.sdcc.jp/>
には、左記QRコードより
アクセスできます